

2021年度の目標（ゴール）

- 幕張新都心における自動運転車の社会実装に向けた課題の洗い出し（インフラ・技術・サービス）

下半期の取組み

【取組み】

（第4回WG）12月22日（水）

<アジェンダ>

- 中間まとめ報告の振り返り
- 今年度の自動運転実証実験について
- 実用化に向けての検討事項

<主な意見>

- 実用化を2025年度に設定した場合、課題の多い海側より山側が現実的に感じる。
- 急ブレーキに因る車内の転倒事故への対応等、通常有人で対応すべき事象など技術的な課題も多い。
- 国のロードマップと合わせての実用化に関しては、情報を連携しつつ可能な限り援護できれば。
- サービス事業視点で、自動運転は24時間走行が可能で様々なニーズが拾えるものと認識している。

交通需要等の採算性の検討も重要だが、移動を担保することでの総合的な価値の創出として検討するべき。

【取組み】

(第5回WG) 2月18日(金)

<アジェンダ>

- 自動運転バス実証実験の実施報告
- 総会に向けたWGの検討報告について
- アンケート(実用化への検討事項)結果の共有について

<主な意見>

-
-
-

(自動運転バス実証実験)

1月15日(土)～16日(日)で実施。別途資料にて概要説明。

他WG依頼の意見、検討事項への回答

【依頼WG】

モビリティ利活用WG

【意見、検討事項】

(各WGで実施される実証実験のデータ提供について)

●回遊性の向上のために、WGごとに行った実証実験のデータ（例えば、走行実績、走行ルート、ヒートマップ、ヒヤリ・ハット、アンケート結果、その他実証実験で見えてきた幕張新都心における課題）について、WG内で意見交換を行った上で、その結果をモビリティ利活用WGへ提供してほしい。

【回答】

●自動運転バス実証実験

1月15～16日の実証実験結果については、通信状況等の課題も判明し、アンケート内容も踏まえて現在整理中。共有できるタイミングでコンソーシアム内へ展開したい。

2021年度検討とりまとめ

(自動運転の実用化に向けて)

- 実証実験を通じて、「地域の社会受容性の向上」や「一定の地域ニーズの把握」が成果として確認できた。
一方で、幕張新都心での導入を見据えた際の環境面（GNSS通信、道路交通など）の課題も判明。
- 現時点で、交通渋滞や速度の異なる多車線での自動運転バスの共存について、安全面を考慮した場合、
手動介入が必要となる。
→インフラ整備等でどこまで安全性を確保できるか。
- 事業化を想定した際の持続可能性を考慮し、WG内で検討した結果、共通の課題として、「ルート選定」、
「インフラ整備」及び「ビジネスモデル構築」の3つの課題をクリアする必要があることを認識。
これらの課題はすぐに解決できるものではないものの、事業化に向けて検討すべき事項である。

【実用化に向けた課題】

- 1 ルート選定（どこで実施するか）
- 2 インフラ整備（何が必要か）
- 3 ビジネスモデル構築（どう運営するか）

今後（2022年度～）の検討事項

（ルート選定について）

- エリアを絞り、集中的に検討

→ 実証実験を実施した「幕張豊砂駅を中心とした海側エリア」、

若葉住宅地区の開発等、新たなニーズの見込める「海浜幕張駅を中心とした山側エリア」

上記2パターンを中心に実用化すべきルート選定の検討を進める。

（インフラ整備について）

- 整備に対する費用対効果等、専門的に検討

→ 企業等へのヒアリングやより専門的な調査を通じて、具体的に検討を進める。

どのレベルのインフラ整備がどの範囲まで必要か、横展開の可能性も考慮する。

（ビジネスモデルの構築について）

- 運営に必要となる役割や費用を、多角的に検討

→ 運行管理費、人件費、道路インフラ維持管理費等、実用化によって発生する費用を特定し、事業化した際の

関係者（自治体、企業等）の役割分担や費用負担の在り方を議論したい。

（実証実験について）

- 今後も様々なケースや需要の見込めるルート等で継続的に実証実験を実施し、フォローアップしていく。

- 技術レベルの高度化も含めて、より実用化を想定した実証の実施を検討する。